明治廿五年一月廿五日印刷
明治廿五年一月廿五日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第貳十六號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌
第貳拾六號

目次

◎演説
◎齒の養生法（前號の續）　高山紀齋君
◎白粉の害毒及其撰擇　榊俶君
◎乳房の疾病　伊藤隼三君
◎會告　數件

保育園規則摘要

位置 本園は麹町區一番町十二番地に設置す

目的 世間往々自宅にて嬰兒を保育しかぬる事情あるを以て其人々の依托に應じ容易く保育の便を圖るものとす

整理 本園は小兒科及衛生家中有名の諸大家に就き鞠養保育の方法及嬰兒の健否を謀り一切の庶務は本會役員の監督に屬するものとす

園兒 入園を許諾する嬰兒は生後三十日以上とす
但現に疾病に罹れる者殊に傳染病を患ふる者は一切謝絶するものとす

食物 保育兒の食物は衛生の原則により各年齡に從ひ適當の調理をなすと雖哺兒乳は精撰の牛乳を以て養育するを常則とす

入園料 特等一ヶ月金七圓並等金五圓とす
但會員の照介にかゝる貧困の嬰兒は慈善のため保育救助することあるべし

目下欠員あり規則書御熟覽の上速に御申込ありたし

大日本婦人衛生會附屬 **保育園**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第廿六號　明治廿五年一月廿五日發兌

齒の養生法（前號の續）

高山紀齋君口演

孰方の齒にても齒壐の付かぬ者はありません其齒壐には何がなるかと申さば食物や唾の内に含んで居ます土質分からなるので肉眼ではよく見へませぬけれ共唾の水分は絶へず蒸發して其土質分ばかりは齒の一部分に殘り段々固着するものです恰も鐵瓶で湯を沸すに湯垢の着くと同じ道理で鐵瓶の水は湯氣となり蒸發して土質分は湯垢となり其周りに白く固着します此湯垢も水の性質によりて多少が有りて齒壐も人の性質によりて多少があるのは水の中や唾液に土質分の多少があるに因ります此齒壐は皆さんのお考よりは餘程大害があります通常齒の痛むのは療治すれば直りますけれど齒壐より生じた害か手後れになると全治せぬ事があります齒壐の性質は段々齒の根部へ沈澱して次第に多く積もり厚くなりますと齒の根と齒齦の間に狹まりて齒齦と齒根と離れるようにありまそ、

然る時には齒は段々と上に長く延びて出ます故根の方が淺くありグラ／＼する樣になりてまいります此が甚だ齒の爲によくありません元より齒の根は肉にて能く包んで居る可きものが肉より外に現れ出る時には直に水や空氣に感じて痛むようになります此症は外の齒痛より療治も中々六ヶ敷苦痛も甚しきもので遂に全治せぬ時には拔くより外に仕方がありませんから此に能々御注意あつて豫防法が緊要であります此症は老人に甚だ多くありますが實は壯年の頃齒壐を取除く事を怠りし罪であります凡て齒壐は一箇年に一度は必ず除きて清潔にしますと斯樣な憂は少ないに相違ありません夫には玆によい證據があり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ますから自分の事よ就て申述べましよう
私は元來岡山縣の士族の子で齒醫者抔にある考へ少しも有りませんでしたが幼年の頃西京に遊學しまして歸郷の頃より大臼齒が痛み治療を種々な醫者に頼みますと皆直らぬ症にて齒は助からぬと申ました夫から東京へ學問修業にまいりました頃も兎角齒が惡く又多くの醫者に罹りましたけれどもどの醫者も〳〵到底齒は一本も助からぬと申て唯當座の治療に日を送り其頃は私の齒も一本も殘らずグヲ〳〵動いて固いものは噛む所の話でハなく少し硬い御飯でも噛みますと奥齒がメリ〳〵と申す音がする程で今にも抜けそうで有りました其後少しの考もありて米國に渡りました丁度此頃東京高等女學校の御雇ひにつなて居りまする「ミス、プリンス」の學校に居りまして米國の齒醫者に治療を托しました處が其先生が私が口を一見して大に驚き斯んな齒ハ米國でハ見た事がない何故日本の醫者に直してもらはぬと申ますから實は日本でハ齒の療治はしたけれど齒齦やら齒の骨やら分らぬと答へました夫なら治療をしやうか併し治療した後に指圖する通りに養生法を守らぬと迚も齒は助からぬ故よく注意せよと申ました私ハ兼々日本の醫者から齒の骨だと聞いて居た齒齦と殘らず器械にて取除て仕舞ました後にて齒刷を使ふ事を教へて呉れました齒齦を取りました時の心地は口中か輕くなりてよいようでしたが元より見た事も聞た事もない療治ですから何だか變でした。
其後齒刷を使ふて見ますと齒齦が痛いやら血が出るやら何分使い通ふせませぬから一日で止てしまいました其後一周間計して初の齒醫者に診査してもらいましたら大に立腹しお前ハ私の言ふ事を用ひない一寸も刷毛を使て居ないと怒りますから大に困りましてイエ〳〵毎日使ふて居ますと申ましたら尚々立腹

し刷子を使ふ齦肉は一目に分るアナタの言ハ虚だと申す故不得已實ハ一日使ひし處痛くて血が出てドーモ辛抱か出來ず止めたと申升と少し機嫌を直して夫がよいのだ出血したり痛む間ハまだ齦肉が惡しるしだから二三周間も經るとなほる若し今此儘に刷毛をよせば齒ハ一本も殘らず拔てしまう孰なりとも勝手にするがよいと申ました私も考た處が日本に居る時その醫者も皆齒ハ一本も助ぬと斷た程だから今此醫者の云ふよふにして助からぬ處が損もあく先づ試みにやつて見よう位のつもりで朝夕刷子を使ひました處が奇妙な者で二周間もすると出血も止み齦肉の痛のハ忘てしまい初は軟弱な齦肉も固くなりて齒根に固着し三周間も過ぎました頃には生れ變つたように齒が丈夫になり齦肉の色もよくなりました其以來ハ齒の苦痛などハサツパリなく以前は固いものは申そまでもなく蜜柑のような菓物か少し酸味の物は口に入れる事は出來ませんほど惡るかつた齒が近年は何を口中に入れますも少しもしみて困る抔といふ憂ハなく健全になりました今に御恩は忘れません其代り今以て夜分寐る時必ず一度宛含嗽してソヶを使はない事は有りません此齒鹽の害に就てハ自分自からの實驗をお心得の爲めまでに申上ますので其頃ハ日本にて齒科醫の餘り開けぬ事に感じが起り私と同樣に難義をする人が有るに違ひないと云ふところから私ハ初めの目的を變して終に齒科の事を修業して日本に歸りました斯樣な次第で以上お話申ました事ハ素人威かしの法螺ではありません餘程親切心から申上た次第です仍ドウカ皆さんも閑朝抔の噺よりハ面白くないに相違ハありませんが一身の健全ハ子々孫々の健康を全ふなさる根本土臺にて謂ハば一國の富强にも係はりますから何でも養生法とお守りなさるが第一です此外に食物の關係入齒に就ての利害の點、

涅歯の害毒或ハ男女に依て歯に强弱の差異ある事から眼病、子宮病、全身病の歯に大切な關係のある事などお話なして置きたい事は中々澤山ありますけれと近々出版致しまする衞生保歯問答に譲ります今日は先づ是迄と致して置きましやう」〔終り〕

◎白粉の中毒及其撰擇

榊　俶君演説

私は暫らく御無沙汰を致しまして甚だ相濟みません、實は今日も確かに出れるかどうだか前に知れて居りませんで、先づ大概は御斷り申す積りで御座いましたが、折りよく私用も濟みましたから、取敢へず出ました、併し臨時に出たので御座いますから、演題も極めて居りません、從てお咄し仕まする事柄も、前以て調べる暇も御座いませんでしたが、唯一寸時間潰ふしに詰らぬとを申上ます」今日申上げまするとハ、嘗て本會におきまして、お咄しを仕ましたお白粉のとで御座ゐます、何月で御座いましたか、本會の例會に於きまして、日本のお白粉は衞生上害の有るものであるか無いものかと云ふ事に就て、一般のとは申上げ、又場合に依りまするとお白粉が毒になり、大變危い事を起すと云ふとも、申しました、白粉の中にハ鉛が大變這入いて居る、ソレ故白粉の中毒は鉛の中毒で害になると云ふとをお咄し致し其時に色々の白粉の試驗をして御目に懸けました、皆立派の名の付いて居る白粉で今ハ名前も忘れましたが、花の露、或ハ櫻の匂だとか、なんだとか立派な名が付いてるソして、俗間で是れはよい白粉だ附きも好し、顔もあれないと云ふ物程鉛類が澤山這入いて居ると云ふ事も申上げました。併し、今日まで幸にして御婦人が鉛類の澤山這入いて居る白粉を用ひに成りましても、別段にドクと云ふ事の無かつたのは、附けると申した處が顔と頸に少し附ける

のみですから、幸ひに毒のあると云ふヿを知らずに通つて居りました、私は昨年其噺しを致しましてから後も、始終此事に注意して居りました。處が順天堂の佐藤さんが順天堂病院に白粉の中毒者が有ると云ふヿを、始めて研究會に於て、噺された事があります。「其中毒したものは何れも俳優で嵐民芝であるとか、或は中村福助であるとか云ふものは、白粉の中毒に罹つて居ると云ふヿで、御座います。其後私も一人の白粉の毒に罹つたものは出會しました。最初は白粉の毒と云ふヿは知らずに普通の癲癇病であると思つて居ましたが、所が段々調べて居る中に、全く白粉の毒で有ると云ふヿが解りました。其人がドウ云ふ風の病氣に爲つたと云ふヿを御物語り致します。」

其病人は年は四十三歳になる俳優で、藝名か中村雀藏と申しまして、私は名も聞いたヿもありませんの、嵐雀と云ふ俳優の弟子であると云ふ事を云ひました、又芝翫に付いたヿも有るさうで御座います、併し下等俳優で、自分の務めて居りまするとは女形ださうです。此人の病症を調べまするに、十六歳の時に俳優になつて、其時分は多く小性の如き子役を勤めて居りました、御承知の通り、子役は女形と同して、顔頸は申すに及ばず、手腕まで足は膝の上まで眞白に白粉を塗て仕舞う、其附け方も能く聞いて見まするに、通常御婦人のお附なさるのとは違つて居る、是は其男から直に聞いたヿで有りますが。第一俳優と云ふものは、幕の替り目毎に白粉を附けなほさなければならない場合が有る、ソして附けまする前には、必ずお湯に這入り、スッカリ垢を流してから附け、又一幕濟むと復サウ云ふ風にする、垢の附いて居る上におしろいを附けるのとは違つて、垢を落して白粉を塗り込み、又洗つて又附けると云ふ

、様に丁度おしろいが皮膚の中に染み込む位ゐに附ける、ソレも一日だけでは無い、芝居の有りまする限りは毎日さうして居る、ソレが中村雀蔵は十六歳から四十三歳になりまする間、用ゐ來たつて其年限ハ凡そ二十七年間です。私も始めの程は、鉛の中毒で有らうと云ふ疑ひハ無かつたが、委しく聞いて見ますと、始めて起つて來たのは二十五歳のときで、十六歳から二十五歳迄十一年目で、あらたに非常な痛みを覺ゑ、就中下腹が痛んで其痛方ば針でさゝれる様なふうで、時に依りまするも暫らくの間苦んで居る事もあつた、是れ白粉の毒斗りでは有りませんが、凡て鉛の毒でも水銀でも其外金類の毒に中りましたのハ、お腹の痛むのが始まりです。則ち其痛みハ通常云ひまする、疝氣の痛み、御婦人の方でありますると、癪、或は血の道とも名けまする痛みのやうな、烈しい痛みを下腹に覺ゑて、それから續いて病院に來まするまでの間は齒齦が頽れ出しました。齒齦の頽れまするのハ、矢張り金類の毒に依るのです。故に水銀を余り長く用ゐまするど、或病には是非水銀を用ゐなければなりませんが段々齒齦が紫色になつて頽肉れて來る、尚ほ用ゐますと、遂には齒が抜けて仕舞ひます。此者も齒齦が頽れ出しましたそれハ、矢張り二十五歳の時でしたが、それから明治廿三年五月に自分の兄さんが卒中を起して死にましたので、非常に悲みを惹起して、それから精神が可笑くなりました、ソレハどう云ふ風に可笑くなりたかと云ふに、五月から御飯もろくに進まず、運動もせずに鬱いで仕まつた處が六月十三日に家を飛び出して、何處に往つたか譯が分らない。其中警察に引かれて家に皈つてからハ、乱暴を始め、家のものを打擲し、又大きな聲を出して歌を謠つたり、或ハ所をえらまずに一種汚いた咄しですが。大小便をし

たり、烈しい躁狂を仕出しました、其騒ぎ斗りで無く「彼處の物が動く」とか「此處の物が動く」とか「薬鑵が天井ノ上に飛上つた」とか、或は「向ふに人か立て居る」とか、「隣りの人か祈つて自分に狐を附けた」とか、有る事無い事饒舌り出しました。それが段々に高じて、七月末には二階の戸棚に入れて置かなければならない様ふなつた元より俳優と申しても下等俳優ですから家ハ非常に貧困して居ります、戸棚に入れてからも、外に飛び出して仕舞つた事などもあります、其後九月になつてから大變に落ち付いてマルで、馬鹿の様に氣拔けかして、所謂精神が痴鈍に爲つて仕舞ひました處か其時分巣鴨病院の施療室が明いたものですから、參りました、ソレハ恰度昨年の十月三日で御座いましせ、病院に來てからハ左程酷いとハ有りませんでしたか、唯精神かボンヤりして、何か云ひましても只ヘイ〳〵と笑つて居るのみの事で、偶に委しい話しを仕ますると、少しづゝの、事ハ分りましたか、朝御飯を食べたか食べないか忘れて仕舞ふ、自分かドンな薬を貰つたかも知らない、併し奇体な事にハ「誰れでも此病氣になるものはさうで御座いますか。病氣前の事は細いとまで好く覺えて居る。ソレ故俳優の用ねまする白粉の事抔も、此人から聞いて解つたので御座います。

病院に參りましてから、段々身体を撿めて見まするに、第一に噺しを仕まするに、口か充分に動きません、噺しを仕まする前にハ、唇か引釣つて仕舞つたり、舌か強張つたりします。何か云ハせて見ると、例之ば「ラリルレロ」と云ふのも「リアリヽルノノヨ」となり、「サシスセソ」もサシシイシエショ」と云ふやうになつて、音聲を發する場合か不充分になつて居つたです。又鉛の毒の爲めには手足か利かなくなります、是れは鉛毒の固有のものでありますか、前脳

の時に繪を御覧に入れましたが一丁度妖怪の樣に兩手の手首を下げたつきりになつて、物を摑む事は稍出來ますが、手首を上げる事が出來なくなる。ソレが此患者にも起つて來まして、矢張り次第につのむ事も出きなくなつて顫へて居る、ソレと同時に兩手とも上の方から延ばす事も上を向ける事も出きなくなりました。ソレして兩方の腕ともスッカリ瘦せて仕舞ひました。ソレから十二月末から一月にかけてインフルエンザに罹り、肺の焮衝を起し遂に肺炎になつて一月九日に死亡致しました」

今此病人の、始めからの履歷を考へまするに、始めは腹部が痛みソレから齒齦が顯れ出し、精神が可笑くなり、手が幽靈の樣になつたので、若し此病人が長く生きて居つたとしても、只息として居ると云ふのみの一つの凝固になつて、手足の運動も何も無くあつて仕舞うので御座いますソコで私も、是れは白粉の中の鉛の中毒で有ると云ふ事を察しましたから、尙ほ委しく聞き訂して、其白粉を取り寄せて見ました處が、非常に鉛を澤山含んで居る、俳優の付けまする處の白粉は、御婦人方のお附けにある白粉とは違ひまして、丁度白墨見た樣な四角なもので、「パッチリ」と云ふ白粉の種類の物を四角に固めたので、（白粉の實物を示す）此白粉を忽ちの中につかつて仕舞う。是が白粉の中で一番色の白いので御座います、此白粉には鉛が澤山這入つて居る、只今順にお目に懸けますが、御覧になる時に貫目を引いて御覽んなさい、非常に重う御座います、白墨て有りますれば、極く輕るう御座いますが、此白粉は見た處よりは餘程重みがあります、粉は極く細く別段に香もなし、味も無いものですが、此中に非常な澤山の鉛が有つて、………專口皆鉛と云つても宜しい位であります。いつぞやも鉛の有るか無いかを試驗して御

覧に入れましたが、此白粉も愈々固が有ると云ふとを調べて御覧に入れます。

鉛と云ふものは「少し學問上のお咄しになりて參りますが」硫黄と一處にしまするそ、硫化鉛と云ふものになつて、黑色になります、併し是れハ平常皆さんが御試めしよなさるとは出來ませんが、鉛を試驗するにハ、斯するのであるそ。云ふ事だけを。御覧に入れるのです。試驗管に右の白粉を溶ひて入れ。是れは眞白の白粉でありますが是れに硫化水素、或ハ硫化アンモニアを入れまするそ、硫化水素の黄硫そ、白粉の中の鉛と結び付いて、硫化鉛となり、渇色或ハ黑色、鳶色に變じます、色が變じて黑くなりますれば鉛が這入つて居ると云ふ証據て御座います

（試驗管の白粉黑色に變ずるの實驗を示す）

ソして世人が遣ひまするのは鉛から出來た白粉を一番余計に遣ふ、併し此白粉ハ上表ハ奇麗に見江ましても、此中に鉛の這入つて居りまする事は確かで御座いまそ、則ち此白粉を付けまするを、皮膚から鉛を吸ひ込んで害になります醫師の方でも病に因りまして、藥を外から塗りて、からだに入れる療治ハ幾らもありまそ、則ち先刻御咄した、水銀を用ゐる療治抔も水銀と仙とを塗つて、毎日からだに塗り込んで居ると遂に水銀がからだの中に這入るやうになります。ソレと同じで白粉を付けるのも、不潔物即ち垢の付いて居る上に、白粉を付けるのならで、たいした害にもならあいが、能く垢を磨いて置いて付けると害もになります貴婦人方の御附けなさるのは、分量も少なう、御座いますから、此俳優の如き害は、平生は有るべき事では有りませんが併し本來斯う云ふ烈しい毒が有る云ふとの知れた以上は成るべく御注意なすつた方がよろうし御座います。

ソレには何うしたら宜いかと云ふに、白粉をお買ひになるのは、白粉の良否は決して價直の高下に因るものです無い、高い白粉でも非常に質の惡い物も有るし、又廉い白粉にも案外良いものがあります。何にせよ御求めになるには自分の好みと比較して、手に觸せて袋に這入つて居る所よりも重かつたならば、先づ首を傾けて……店頭で御買ひになるには、成る丈け輕るいものが宜しい、と云つて嵩が少なくつて量目の輕いのは往けないが。……御考へ爲さる方宜し又愈々鉛の這入つて居ると云ふのを見るには、銀色をした奇麗な金に、白粉を少し溶いてくつつけて、火の上で焙りて御覧なさい、若しそれが鉛で出きて居る白粉で有れば、燒きましてから拭いて後に、黄色或は灰色或は赤色、激しき時は黒い染が殘りまそ、又鉛の這入つて居りませんものでは此斑も出來ませぬ（大抵皆なカタクリで製したものでその

が西洋の白粉抔は多くは米の粉で製したものです……葛だとかカタクリだとか云ふ様なものから出來た白粉を燒いて見ると、殘らず燃ゑて仕舞ふ、或は石灰から出來たものは……石灰から出來た白粉は滅多にないが牡蠣の売を燒いた白粉が有りまそ……石灰から出來た白粉は皮膚か痛惡ますから滅多に有りませんか、若しも石灰から出きた白粉ならば、幾ら燒いても白い物は何時までも白くて居る白粉を附けまするは誠に能い事でありますから、能く御注意なすつて、質の良いものを充分に御付けになるか宜しい、自分の身体を奇麗にしまするのは、元と美妙の心から起つた事で有りますから、幾らでもおめかしになるか宜しいか、ソレには品物を擇ぶか肝要で御座ゐます、併し此事は先頃も御咄し致しましたから、操返しは申上げません、是から嶋村君か有益なるお話しをなさるさうで御座ゐます、今日は是れで御免

を蒙ります。

◎乳房の疾病　　伊藤篤三君述

今日は、乳の出まする乳房の病氣に就て、少しく皆様に申上げやうと思ひます。尤も乳房の病氣の事を申シますのが、本意でハ御座いませんが、其病氣の事を申上げて、幾らか之ヲ豫防する事が出來るであらうか否の、若し出來るものならば、之を豫防して成るべく病氣に罹らぬやうにするが宜しうでございます、適當に注意して尚はソレで起るものならば、ドウも仕方がありませんから只だ出來るだけの養生注意等を爲しまする事を致しまして、ソレと一ツお話し致して、皆様のお聽きに入れようと存じます。

元來乳の病氣と云ふものは御婦人方の固有の病氣で、男子には殆んとありません尤も、男子の方には決して病が無いと云ふ譯ではありませんか百人二百人も煩ふうちに、九十九人百九十九人迄ハ御婦人方、で一人ハ、男子ですから、男子には先づ無いと云ふても宜しいと考ひます、御婦人方の固有の病氣と申しますものゝ、通例幼い時分には少しも乳の病氣ハございません、段々成長なさりまして後に、現はれて參りまする病ひでありまして、極く幼い時分にはありません、然らば如何なる時分から始まるかと云ひますに通例妊娠して、產を爲さるソレからの事であります。ソレから乳の病氣か始まるので、其の以前に於ては、幾んど無いと云つても宜しうございます先づドウ云ふ工合から起ると云ひますに小供に乳を飲まする爲めに、始終乳首の邊に小供の齒か當つて、皮か破れるとか傷かつくとか云ふ事になつて、皮に傷かつけば痛みを覺えると云ふ事になります、尤も其時分ハ輕い病氣ですから、早く手當とさへ致しますれば、直に癒るのであります、又ドナタにても、乳をさへ上げなされますれば皮か破れると云ふも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のてはありません、勿論別條のなき、人の方か餘程多いのでありますさう云ふ、工合にして、傷かつき皮かむけると云ふ事は、人々によりまして是れハ大層違ひかあります例へば、皮膚の薄くきめの細かい人なとハ、兎角皮か破れ易いやうです、勿論人によつて違ひまする、事でありますかドナタでも、其の憂へがあると云ふ譯てはありません若しさう云ふ工合になつて、傷がつき皮がむけまして其痛む折に無理よ乳をあげるとか云ふ事をなさりますれば忽ち乳が腫れだして尚ほ一層強く痛むやうになり、又例へば右の乳が腫れまするを、右の脇の下にグリ〳〵が出來まして、其の痛みの爲めに夜にも寐られぬと云ふ如き、有様になつて參りますソレでも、早く手をつけて治療して置きますれが幾らか赤くなつて居つても直き消へて、癒ります時もあるので御座いますが左もなき、時ハ熱が出て　頭痛がするやうになり

物も食べて味のないと云ふ、如くに成ります。而して若し膿みますれば早く切りて仕舞はなければなりません、夫れで癒るかと言ますれば、截り様が惡るいとか、截り様が遅いとか云ふ時は、乳房か殘らず膿んで仕舞つていつまでも癒りません到底そう。云ふ乳にありまするを役には立ちませず、乳の全部を截り取つて、仕舞はなければならぬと云ふ不幸に陷る事か有ります。若し是れか幸にして癒るとしましても、多くハ跡にカタマリか殘つて……一度膿んで腫れて居りましたのか、截つた爲めに癒つたとしましても、どうもカタマリか殘るもので有りますか其カタマリが殘つて氣候の變り目抔にハ痛みを覺ねるとか、時々ハ痛みに堪られぬと云ふ樣な事か起ります、右の如く乳か固くなりますれば必らず乳の出か惡るいとか、又乳か出ても其乳か小供に呑す可らざる惡しき乳に爲ると云ふ樣な事に成ります。

元來斯樣な工合に乳が成りまして、膿んだり坏致しまするのは、何う云ふ御婦人に多いかと言ますれば產を爲されたお方に多ゐのであります。妊娠せず產も爲ない人には、乳の脹れる樣な事は少なうござります、今日までに私どもの見た處に依りますれば、始めて產を爲した人に最も多ゐ樣であります、殊に始め一月二月の間に乳を痛めて生み出すと云ふ事が多ゐので有ります、最も二度目三度目の產、夫れから後の產の時になりましても、全く乳の病を起さなゐと云ふのではありません、中には稀に有りますけれども、始めの時を以て最も多いと致します、夫れ故に始めて產をなさる丶御方は、能くお氣をお付けなさらねばありませぬ。然らば小供に乳を上げなければどうであらうか產を爲さるとも小供に乳を呑せなければ、腫れたり膿んだりする事はなゐかと申しまするに、勿論どのお方でも乳をあげなければならなゐと云ふ譯ではありません、丈夫の人は乳を上げても何ともありません、併し乳を與へては自身の爲めにも惡るいし小供の爲めにも惡るいと云ふのが中には有りませう、さう云ふのはあけない方が宜しう御座ますが、又中には乳を上げなければ乳が溜って、其溜り工合てカタマリが出來まして、痛み出す樣な事か有りましてカタマつた、場所か出來て、それか痛み出すと云ふ樣な事が多いので有りますから乳をあげても、時にはも痛み出すと云ふ譯になります、尤もカタマりの出來て乳の出工合が、惡るいとか、或は乳が出ても乳が良くないとか云ふ位ゐの事で濟めば何でもない話しで有ります、自分の乳で無くても他に之を見付ける事の出來ます故何んでも無い話て有りますが併し時に依りますればづつど年を老つてから、四十迄五十……六十になつてから、其カタマりの爲めに惡るい腫物が出來ると云ふ樣な事が

有ります、所謂乳癌と唱へて、惡るい腫物が出來て乳が次第に腐敗つて仕舞います、畄に乳が腐敗る斗りで無く、一命を其爲めに失さなければならんと云ふ樣な、惡るい腫物の出來ます、而して此乳癌と云ふ惡るい腫物ハ、何時でもお若い中に乳を痛めて膿を持つたり拆致したもの斗りに、出來るものかと言ますれば、さうでもありません、乳を痛めた事も何にもないものに起る事か多くあります、併し時に依れは乳を膿してカタマリの殘つて居たり或は乳を與へないでカタマリか出來て居つたのか、年を老つてから惡るくなるのか度々有ります。

さう云ふ工合で有りまして乳がんの如き惡るい腫物か出來ますれば、放つて置けば通例是れ迄の處に依つて調べて見ますると、三年四年位ね掛つた上で、癒々惡なくなつて遂に生命を失られる樣な事になります、極く稀れには癒る樣な場合もありますか、是は何うも癒らない方か多い樣でありますが必らず三年四年の後になつてから、其爲めに生命を失られる事か多くあります、お若い中に乳を痛め、其爲めに、始終一生の中には氣候の變り目に痛んだり拆致したものか遂に乳がんとなつて生命を失られる樣な、不幸中の最も不幸に陷る事か有ります、斯うなると何とも申上げ樣もない譯でありますが、乳が病氣に掛る其原を尋ねますれば、始めて產をした後に不注意をして乳首の邊の皮が破れて乳が膿出し、次にカタマリが出來て、後にハ斯樣な惡るい腫物が出來ると云ふ順序になります。決して何時でもさうであると云ふのでハありませんが、時ふ依ればさう云ふ樣な不幸のものになります。是れは稀な事であると思召す御方がおるかも知りませんが、さう稀な事ではありません隨分多く有ります、それ故にさう云ふ病が無いにしましても、始めて產をするとか、或は何時

でも乳に疵を付けたとか、乳首の邊の皮がむける樣な事がありますれば最も注意して、早く癒して仕舞はなければなりません、極く僅かの物であると思つて放つて置て、後ちになつては終に取り換へしの付かん樣な事になります。始め皮がムケタとか、疵が付いたとか云ふ位ひの事ならば、直に癒つて仕舞うので有ります。

猶大切の事は疵の付かない中皮のムケない中に、疵の付かない樣皮のムケない樣にするのが大切であります。夫には殊に皮の薄いキメの細かい御婦人であるならば、常々皮を丈夫にする樣に、キメを丈夫にする樣に、妊娠をして居る中に産をしない中から、其皮を固める樣に注意なさらなければなりません。夫れにはツメタイ水で乳の邊を拭くとか或は酒で拭いて固めるとか云ふ樣にするが宜しうあります。又乳首の小さいお方なれば、妊娠の中よりして、少しづゝ引つ張る樣にすれば次第に大きくなりまする。

而して始めて乳を與へる時分には、乳首の余り小さく無く、皮の余りに柔かくない樣に出來ます又始の中に注意して置きますれば、幾ら乳が附てい居りても乳の處が濡れて居つても、皮のムケる樣な事は無くして仕舞う樣に出來樣と思ひます、又自分の乳斗奇麗にしたとても往けません、小供の口の中に乳が附いて居つて、それが不潔なりまして、其不潔いものが乳に附着して乳の皮がムケ易くありますそれですから自分の斗りを奇麗にした處が、迚も往けません、常よ小供の口を奇麗にする樣に致しますれば小供の爲めにもなり、亦御自分の爲にもなり、兩爲の事で御座います故始めから御、注意なさるは宜しい事で有ります。

然れとも、若し不幸にして傷が附き皮がむけました時は早く療治をしても、是が膿む樣になつては最う

遅いと言れねばならぬのであります、膿んでも早く之れと所分して截つて仕舞へば宜しう御座いますが截るのがいやだとか何んとか云ふて愚圖々々して居る時ハ、必らず手遅れになります。手遅れになれば、遂にハ、乳殘らずを截つて取らなければ癒らないと云ふ樣になります、乳を截取つて癒れで宜しう御座いますが夫も癒らずに遂に生命を失すと云ふ事にもなります。さう云ふ不幸な事が出來ないとも言れませんのでありますから始めから御注意なすつて、始めて御妊娠をなされたならば、乳を上げない中に早く乳を上げる時、御注意なさつたならば宜敷いであらうと思ひまして、聊か皆樣のお耳を拜借致した次第で御座います。

（完）

謹賀新年

併せて會員諸君姉の萬福を祈る

◎昨年を回顧すれば春ハインフルエンザ流行しまもなく疱瘡窒扶斯發生し盛日月のあとにく人々皆氣味惡しき思ひをなせり幸ひコレラ病者も僅々にして秋風とともに\／\消滅せしが十月廿八日の大地震は皆に天柱折け地維缺くと云ふべき震動にして特に岐阜愛知の慘状ハ見ることも聞くこともに魂を冷やかならしむ人生は眞に朝露の如く昨日の榮華ハ今日の夢慈善は人の爲めならず我身の上の祈禱なりされば慈悲ある本會皆樣の義捐をもて救助の幾分を爲すことを得感謝措く能はざるなり茲に本年最も恐るべく患ふべきは疱瘡流行にして昨年十一月一日より本月十五日までで府下に於ての同患者總數は四百五十四人にして内死亡せしもの九十六人なりと神田區の如き一昨廿一日の如きハ一日の患者二十三人多きに至り爲めに本所病院ハ今滿院につき去十八日より駒込病院を開院せられたりと栃木縣は尚一層烈しく患者八百四十六人死亡百〇四人と此際兒童に種痘を施す事と患者に接近せしめざるとの外豫防の方法なし其豫防法大略は皆て本會雜誌第拾六號に掲載せるを以て茲に之を贅せず

◎正誤　前號雜誌震災義捐者姓名表中五番目に會員外とあるは誤植にして右ハ岩崎なほ子肩書となるものなり又同表中小野竹子義捐金拾錢とあるは五拾錢の誤殖に付茲に正誤す、

◎一月中**入會者**左の如し（姓名御申込順）

加藤會長の照介により通常會員に

一高山ふさ子　麹町區飯田町二丁目九番地

一紀伊某子　仝區一番町五番地

行木春子の照介により

一森やゑ子　芝區兼房町十番地

同　椿幹事の照合により

一佐藤銀子　芝區田町八丁目一番地

同　加藤常子の照合により

一坪野てい子　遞信省官舍

同　岡田ます子の照合により

一淺井うめ子　南豐嶋郡澁谷村赤十字社病院

◎濃尾震災義捐金送附後左之通義捐せられたり

一金參拾錢　末岡貞子

一金貳拾錢　安西なほ子

大日本婦人衛生會附屬

衛生食物研究會假規則

第一條　本會は衛生食物研究會と稱し假に麹町區一番町十二番地保育園内に置く

第二條　本會の目的は價廉にして滋養の多き食物を撰み和洋折衷の調理を研究し會員互に是を日々實際に行ひ專ら衛生上ニ效驗を現すを旨とす

第三條　何人を問はず本會の目的を賛成入會を望まる、諸姉令孃は直に入會するを得べし

第四條　本會は當分毎月三回第一第二第三金曜日午后一時より開會す

第五條　開會日調理の研究は出席會員互に其風味を評し且懇親を結びて散會するものとす

第六條　本會へ入會する者は一ヶ月金五拾錢を會費とし納むべし

第七條　若し會員外にして臨時出席を臨まるゝ方ハ來會を許し參會毎に會費金貳拾錢持參あるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年慶賀

婦人衛生會萬歳ヲ祝ス

明治廿五年一月一日

井熊さゑ子

謹みて新年を賀し奉る

明治廿五年一月一日

北海道札幌區南三條西七丁目

西川かめ子

恭賀新禧

明治廿五年一月一日

有樂町

水崎保佑

平田よし子

謹賀新年

明治廿五年一月元日

千葉町

高梨美津子

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員
太田いく子
鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京麹町區三番町六十七番地
巖本善治

印刷人　東京麹町區上三番町十八番地
八木吉六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN